

歌ノレノ래 155

『独立軍歌』(2)

山根 俊郎

『独立軍歌』のジャケット

この「クライン ノッ」が歌う『独立軍歌』のCDジャケットには、歌詞や制作陣のコメントそして曲の説明も記されている。「作詞未詳、作曲 ヘンリー ウォーク (Henry work)、編曲&演奏 クライン ノッ 独立軍歌のアルバムの制作に参加して光栄であった。最初に独立軍歌を聞いた時に何か胸が熱くなるのを感じた。独立闘士の魂が生きて宿る歌が若い世代にも広く受け継がれることを望む」とある。「ボーカル／パク・ウンシク、ギター／イ・サンヨン、ベース／ハン・キヨンロク、ドラム／イ・サンヒョク、アコーデオン／キム・インス、レコーディング&ミキシングスタジオ／コレスタジオ、ミキシングエンジニア／チョン・ジン、レコーディングエンジニア／ホ・チャング」「曲の説明：1910 年代独立軍の代表的な歌。米国の作曲家ヘンリー ウォークが作曲した『ジョージア マーチ』(Georgia March)というアメリカの南北戦争の時の軍歌兼讃美歌（韓国では「讃頌歌」チャンソンカ・찬송가と呼ぶ）の現行讃美歌 393 章『われらの闘うものは』の旋律を借用して作った曲。祖国を救う若者たちの決して屈しない必勝の信念を確認する歌。国内だけでなく海外でも広く歌われた代表的な独立軍歌である」とある。

<http://kr.blog.yahoo.com/rhkdnrmkf/1626.html>

また、YOUTUBEでも聞くことができる。

<http://www.youtube.com/watch?v=zkk0nb2a7jw&NR=1>

元は讃美歌だった！！！

讃美歌と聞いて、手持ちの韓国で買い求めた

「讃頌歌・찬송가」（韓国讃頌歌公会編、韓国キリスト教書会発行、1983年12月30日初版、1984年2月27日11版 *わずか2ヶ月で11版を発行しており、韓国プロテスタントの大発展が垣間見える）の393章に『われらの闘うものは』はあった。次ページに楽譜を掲げる。

何でも買っておくべきである。多分、1984年頃にソウルの街角の小さな書店で買ったようだ。若い女性の店員が、「あなたはクリスチヤンですか？」と尋ねたが、私は「いいえ、違いますが...」と返答に窮した。彼女はキリスト教談義を仕掛けようとしたかったようである。

『われらの闘うものは』（「われらの相撲は血と肉についてのものではない」エプ6：12）

- 1. われらが闘うものは血気だけではない
われらが闘うものは肉体だけではない
悪魔の権勢を打ち破り
死ぬ英靈を生かすものである
- *一心に力の限り進もう
一心に力の限り闘おう
悪魔の軍士たちと力の限り闘い
勝伝鼓を鳴らすまで

(2~4番省略)

確かに『独立軍歌』の歌詞はこの讃美歌の歌詞のニュアンスも取り入れているようである。

『ジョージア マーチ』

次に、元歌である軍歌としての『ジョージア マーチ』を探してみた。**ジョージア行進曲 出典：フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』**

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B8%E3%83%A7%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%82%A2%E8%A1%8C%E9%80%B2%E6%9B%B2>

ジョージア行進曲(英語:Marching Through Georgia)は、アメリカ南北戦争末期の1865年にヘンリー・クレイ・ワークによって作られた行進曲である。マーチング・スルー・ジョージア、ジョージア・マーチ、ジョージアを越えて、などの邦題でも知られる。この歌は、1864年に行われた、ウイリアム・シャーマン少将による海への進軍について

『われらの闘うものは』

우리들의 싸울 것은

393

「우리의 싸름은 혈과 육에 대한 것이 아니요
(엡 6:12)」

13.13.13.9.

Anonymous

조금 빠르게 ♩ = 104

Anonymous

1. 우리들의 싸울 것은 혈기아니요 우리들의 싸울 것은 육체아니요
 2. 우리들의 입은 감옥 죄가아니요 우리들의 가진 검은 강철아니요
 3. 악한마귀 제아무리 강할지라도 우리들의 대장예수 앞서가시 니
 4. 죄악중에 빠진 사람 죄를 뉘우쳐 십자가에 달린 예수 믿기만하면

마귀권세 힘써싸워 깨쳐버리고 죽을영혼 살릴것 일
 하나님께 받아가진 평화의복 거룩하신 말씀이 세다
 두려말고 용기있게 힘써싸우세 최후승리얻을 때까
 위태한데 빠진영혼 구원얻어서 천국백성 될것임 일

후렴
일심으로 써 힘써나가세 일심으로 써 힘써싸우세

마귀들의 군사들과 힘써싸워서 승전고를 울리기까지

분투와 승리

March onward!

歌つたものである。愉快で陽気なメロディーにより、この歌は戦後に北軍退役兵士たちの間で広い人気を得た。だが皮肉にも、シャーマン将軍自身はジョージア行進曲を酷く嫌っていた。その理由の一つは、彼が公式会見に出席する度にこの歌が演奏されたのが原因だとされる。アメリカ合衆国南部の外部でも、この歌は人気を博した。大日本帝国陸軍は旅順攻囲戦で歌い、イギリス帝国陸軍はインドで歌つた。第二次世界大戦中の英国では、米国の輸送船団を歓迎する際に歌われた。この歌は現在でも、吹奏楽において人気がある。また、「*Billy Boys*」、「*Come In, Come In*」など、多くの替え歌も作られた。

一番

Bring the good old bugle, boys, we'll
sing another song

Sing it with a spirit that will start
the world along

Sing it as we used to sing it, 50,000
strong!^[1]

While we were marching through
Georgia.

少年たちよ古き良きラッパを鳴らせ、
我らが歌うは北軍歌だ。

活気ある歌声から世界が始まるのだ。
五万の強兵たちが歌ったように歌おう。
そして我らはジョージアを行進した。

Hurrah! Hurrah! we bring the
jubilee!

Hurrah! Hurrah! the flag that makes
you free!

So we sang the chorus from Atlanta
to the sea

While we were marching through
Georgia.

万歳！万歳！我らは祝賀の使者だ！

万歳！万歳！諸君に自由を齎す旗だ！
さあアトランタから海まで合唱だ。

そして我らはジョージアを行進した。

YOU TUBE でも聴くことができる。

<http://www.youtube.com/watch?v=LajDogfPRNM>

H.C.Work Music Box MIRA18「大きな古時計」で有名な H.C.ワークが作曲した行進曲「ジョージアを越えて」です。アメリカ南北戦争時代の軍歌楽曲で今でも米国では愛国歌の中の一つになっています。日本ではエノケンの「東京節」という俗曲で世間に広まって、耳にした方も多いと思います。

『パイノパイノパイ』

私は、「クライン ノッ」が歌う『独立軍歌』を聞いた時から「どこかで聞いたメロディーやな？」と思っていたが… 今思い出しました。幼い時に口ずさんだ森山加代子（1961年発売。シングル『パイのパイのパイのパイ』）だったのです。

パイノパイノパイ 出典: フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%91%E3%82%A4%E3%83%8E%E3%83%91%E3%82%A4%E3%83%8E%E3%83%91%E3%82%A4>

『パイノパイノパイ』とは、演歌師の添田知道(添田さつき)によって作詞され、大正時代に大いに流行したコミックソングである。

パイのパイのパイ、東京節(とうきょうぶし)ともいう。

『パイノパイノパイ』は、大正時代を代表するコミックソングの作品で、東京という土地に愛着を示しながらもそれを可笑しく表現した特徴的な歌である。大正 8 年(1919年)にリリース。元々のメロディーは、ヘンリ・クレイ・ワークによって作曲された『ジョージア・マーチ』(または『マーチング・スルー・ジョージア』)で、この曲はアメリカ南北戦争時のシャーマン将軍の海への進軍の様子を描いている。これに添田が歌詞をつけた(資料によつては作曲者が添田知道(添田さつき)や神長瞭月とされていることがある)。日本では原曲の『ジョージア・マーチ』よりも『パイノパイノパイ』で

メロディーが知られたため、ブラスバンドが『ジョージア・マーチ』を演奏したところ、卑俗な歌を演奏するとはいかがなものかと苦情が来たというエピソードもある。

ノリの良いリズムと、後半部のデタラメな歌詞はかなりインパクトが強い。後の時代にもなぎら健壱やザ・ドリフターズ、ソウル・フラー・モノノケ・サミットによつてもリメイクされたりしており世相や政治を風刺する際に替え歌が歌われたりするなど、今でも健在である。

添田により作詞される以前、すでに明治時代に楽譜が販売されており当時から愛唱されていた。元来は東京名所のみ取り上げられていた可能性もあるが、のち関西に移入して京阪神・中京を歌ったものも流行した。ここに元来の東京の部分を加えられたものが添田により採用され「平和節 一名パイのパイぶし」として発売された。

第一次世界大戦の戦後処理のため、大正8年(1919年)1月に行われたベルサイユ会議に全権として参加していた元老・西園寺公望が、愛妾お花さんを伴っていたことが大新聞に取り上げられ「花ちゃんたら別嬪さんで云々」という替え歌が歌われたことがある。

なお、3番に出てくる歌詞「市長のいうことよくきいて豆粕食うこと痩せること」とは、当時米価が高騰し米を買えなくなっていた民衆に対し、東京市長田尻稻次郎が豆粕食を奨励したことによる。

また時節が第一次世界大戦後のインフレ期にあり、物価が高騰したことから「倍の倍の倍」というもじりもあった。

YOU TUBEでも聞くことができる。
<http://www.youtube.com/watch?v=CI-7YxUU1aU>

♪東京の中核は丸の内。日比谷公園両議院
 粋な構えの帝劇に、いかめし館は警視庁
 諸官省ズラリと馬場先門、海上ビルディングに

東京駅

ポップと出る汽車どこへ行く

ラメチャンタラ ギッционチョンデ
 パイノパイノパイ
 パリコトバナナデ フライフライ

♪東京で繁華な浅草の

雷門仲見世浅草寺

鳩ポップの豆売るおばあちゃん

活動十二階花やしき

寿司おこし牛天ぶら

何だとコンチキショウでお巡りさん

スリにコジキにカッパライ

ラメチャンタラ ギッzionチョンデ
 パイノパイノパイ
 パリコトバナナデ フライフライ

結論『独立軍歌』

以上見てきたように、韓国の『独立軍歌』は、アメリカの南北戦争の時にヘンリ・クレイ・ワークが作曲して、世界的に広まった『ジョージア行進曲』(軍歌)の曲を借用した。歌詞は、圧倒的な日本帝国主義の軍事力に対抗して祖国の独立のために戦う勇気を鼓舞する内容である。「鴨緑江と豆満江を飛び越えよう 邪悪な敵の群れを 打倒して追い出そう」と満州で戦力を整えて、朝鮮半島に進軍して日本帝国主義を追い出そうとする戦略も窺える。一方で、同時期の大正8年(1919年)に日本では添田知道(添田さつき)が作詞して痛烈な世相風刺のコミックソング『パイノパイノパイ』が流行した。本筋は、『ジョージア行進曲』という軍歌を借用したと考えられるが、日本の『鉄道唱歌』のメロディーが朝鮮では『学徒歌』に翻案されたように『パイノパイノパイ』のメロディーを導入した面もあるのではないか? (終わり)